



***不登校傾向の生徒を、一人でも多く前向きにさせる (別紙参照)**

1. 不登校生徒に対する取組の充実と徹底

(1) 生徒が不登校にならない、魅力あるより良い学校づくりのための取組を継続 (リスクマネジメント)

- ①学習指導要領のねらいの実現 (当たり前を磨き続け、高い志を抱ける生徒をはぐくむ)
- ②開かれた学校づくりの推進 (地域社会との連携、外部講師の招聘)
- ③きめ細かい教科指導等の実施 (わかるUD授業の推進、生徒指導の三機能の充実)
- ④学ぶ意欲を育む指導の充実 (特別活動、キャリア教育の充実)
- ⑤安心して通うことができる学校の実現 (いじめゼロ運動、情報モラル教育の拡充)
- ⑥生徒の発達段階に応じたきめ細かい配慮 (特別支援教育、小中一貫教育の充実)

(2) きめ細かく柔軟に、個別の具体的な取組を推進 (クライシスマネジメント)

- ①校内の指導体制及び教職員の役割
 - ア. 学校全体の指導体制の充実
 - イ. コーディネーター的な不登校対応担当の役割の明確化 (生徒指導主事・学年生徒指導)
 - ウ. 教員の資質向上
 - エ. 養護教諭の役割
 - オ. スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーの役割と教員との連携
- ②情報共有のための個別指導記録の作成 **【様式を定める】**
- ③家庭への訪問等を通しての生徒や家庭への適切な働きかけ
- ④不登校生徒の学習状況の把握と学習評価の工夫
- ⑤生徒の再登校に当たっての受け入れ体制の構築
- ⑥生徒の立場に立った柔軟な学級替えや転校等の措置

キーワード

関わる

人や出来事など教育上の対象とするものと積極的に関係をつくる。

2. 危機管理の『さ(最悪を想定)・し(慎重に)・す(素早く)・せ(誠実に)・そ(組織的に)』と、『報・連・相』の徹底

(1) リスクマネジメント (危機が起こらないように予防すること)

- ①授業前や部活動前に、生徒の健康観察と、施設・器具の安全点検を行います。
- ②「自分の安全は自分で守る」を合言葉に、生徒自身が安全・健康に関して気を配るよう指導・支援しましょう。
- ③滝中教職員として、常に危機管理体制について意識しましょう。
- ④バックネット等の大きな施設・設備等の定期的な点検活動を責任もって行いましょう。
- ⑤『凡事徹底』と『三者の信頼関係の構築』は、リスクマネジメントの大きなポイントです。



(2) クライシスマネジメント (危機が起こった時の対応とその準備を常にしておくこと)

- ①迅速・的確な対応方法、事故発生時の措置・連絡系統は熟知していますか？
- ②5W1Hを冷静に把握できますか？素早く要点を記録メモできますか？
- ③校長・教頭に直ぐに連絡(休日・夜間は携帯電話)できますか？
- ④学級・部活の保護者へ、複数箇所連絡できる体制はとれていますか？
- ⑤生徒と教職員の命が第一、校長と連絡がつかずとも迷った時は119番・110番を徹底します。

***平成29年3月3日(金)卒業式の最高の姿を目指す。3月24日(金)修了式の最良の姿を目指す。**

3. 重点P2: 凡事徹底による豊かな心の育成(凡事徹底と、三者の共汗~共感~共育を基盤に温かい人間関係の構築)

(1) 信頼関係の構築

- ① 重D⑩ 生徒一人と一日1回はコミュニケーションを図る。気になる子には一日複数回、顔を見ながら、声をかける。担任以外も生徒に対して積極的に声をかける。「生活ノート」には、親身になった返事を書いてあげる。
- ② 重D⑪ 生徒との相談活動を大切にする。(後回し先送りにしない。気になったその時、その日に対応する)
- ③ 重D⑫ 保護者への密な連絡と相談活動を大切にする。(生徒の気になる言動は、原則、即日家庭連絡をし、共に考える。【共汗・共感・共育】を胸に、共に子どもを支える姿勢を示し続ける。合言葉は、「この子(たち)のために」

***不登校生徒については、学年会 1/5 において情報(これまでの対応と現在の状況)を共有した後、3月末までの対応策を再度検討すると共に、生徒指導部会において個別指導記録様式を作成し、組織的な対応を継続する。**

(2) 開発的生徒指導

重D⑬ 生徒会日常活動・諸行事の協働作業を行う。

生徒会日常活動の充実をさらに図り、真に生徒自身が生活しやすい自治活動を積極的に推進させる。『卒業式』と『3年生に贈る会』に向けては卒業生と在校生にその意義を意識させ、学年生徒それぞれの機運の醸成を図りながら能力を発揮させ、情意的観点からも「自己有用感」をはぐくむ大きなチャンスとする。学年独自の行事を企画し(させ)、個性発揮させることも有効である。重D⑭学年の特色ある体育的活動増へ

(3) 奉仕精神の育成と道徳授業の充実、いじめゼロの推進

- ① 重D⑭ 無言・ピカピカ清掃100%を目指し行う。(滝中の文化として完全定着を目指す。『率先垂範』)
- ② 重D⑮ 滝中は次年度から道徳を教科化する。道徳教育の要として週1時間の道徳授業を充実させる。
- ③ 重D⑯ いじめゼロの推進を行う。(3学期始業式 1/10「滝中いじめゼロ宣言」による再意識化)

(4) 豊かな感性の育成

重D⑨ 花いっぱい運動を100%継続する。(学級+部活動+学年+生徒会) 命を枯らさない指導と支援

4. 重点P1:確かな学力の定着と向上(基礎・基本の定着と課題の解決に向けて主体的・協働的に学ぶ力の育成)

(1) 授業力の向上 → 「滝中スタンダード(めあて)→(振り返り)、(課題)→(まとめ)及び生徒指導の三機能」の取組

- ① 重D④ 互見授業(提案2回以上+参観3回以上)を必ず全員が行うこと。**研究部&学習部徹底**
- ② 重D⑤ 「今日のめあて」提示95%以上 + 「まとめ」OR「振り返り」のある授業を行うこと。
- ③ 重D⑥ 生徒指導の三機能を意識した問題解決的な展開の授業を単元の中に取り入れること。
- ④ 平成28年度学力向上に係る今後の取組計画 12月策定 (主として1年生・2年生)を実践すること。

実施 時期	取組内容		
	学校全体の取組	市・県の学力調査(1年生)	全国の学力調査(2年生)
1月	○質問教室、放課後学習(1年生週1~2回、3年生週3~4回) ○朝学習で過去問、フォローアップシートの実施 ◆「大分市立中学校授業づくりの5つのポイント」及び「3学期の取組計画」について全職員で確認 ◆大分市標準学力検査の問題分析・教科部会で分析・確認・共有	○市学力検査範囲の中で弱点だと思われる分野を扱った教員自作の復習プリントを朝学習で行う。 ○朝学習でフォローアップシートを活用し、定着不十分な生徒に対して放課後個別指導を行う。(シートNO有り) ◆大分市標準学力検査補充指導資料の活用 1/19市調査	◆全国学力・学習状況調査の過去問題の分セK字 ○朝学習で平成27年度以前の過去問題を活用(国語A 数学A)
2月	○質問教室、放課後学習(1年生週1~2回、3年生週3~4回) ○朝学習で過去問、フォローアップシートの実施 ◆大分市標準学力検査の結果分析及び今後の学力向上計画の見直し・各教科部会で達成率の低い項目について分析し、実践していく内容の焦点化、具体化を図る。 ・全体研修会での確認・共有	○朝学習でフォローアップシートを活用し、定着不十分な生徒に対して、放課後個別指導を行う。 ワークシート NO 国語③④⑤、数学6~⑧、理科④~⑦、英語③④⑤	○朝学習で平成27年度以前の過去問題を活用(国語B 数学B) ○学年末テストや小テストで記述式の問題を出題し、解答方法について授業でポイント指導を行う。 ◆国語科、数学科の取組の進捗状況を確認 ◆国研作成の「授業アイデア例」を活用した授業実施(国数各2時間)
3月	○質問教室、放課後学習(1年生週1~2回) ○朝学習でのフォローアップシートの実施(1年 週2~3回) ◆学力向上会議の実施(今年度の学力向上対策の検証) ◆春季休業課題の出題内容の確認 ◆PTAにて、生徒の学習状況と春休み課題について説明する。◆新年度4月の学力向上取組計画を策定する。	○市学力調査で達成率の低い項目について授業にて復習を行い、再度同じ問題を解かせて定着を図る。 ○平成28年度実施の県調査の類似問題を用い、学習定着度を確認し、指導・支援を行う。 ○朝学習でフォローアップシートを活用し、定着不十分な生徒への個別指導を行う。(シートNO有り)	○国語・数学の授業で平成28年度実施の問題を用いて学習定着度を確認、指導(国数で各2時間) ○春休みの課題として弱分野を中心とした過去問題や記述式の問題を出題、新年度に課題確認テストを実施しそのやり直しを徹底させる。
4月	○質問教室・放課後学習(新2年・新3年) ◆新年度の取組計画について全職員で確認 ◆春休み課題の取組、補充指導を実施	○春休み課題の取組状況 課題確認テスト補充指導 ○授業でのフォローアップを用いての総復習 *平成29年4月26日(水)県学力定着状況調査	○春休み課題の取組状況と課題確認テスト結果を把握し、個別の補充学習の徹底指導 *平成29年4月18日(火)全国学力・学習状況調査

(2) 学習規律の確保

- ① 重D① 授業時、教師1分前入室完全実施継続 『率先垂範』により生徒の主体的行動を喚起



5. 重点P3:健やかな心と身体の育成

(1) 部活動と学校行事の活性化

重D⑱ 2年生・1年生に対し、部活生としての志を今一度高く持たせ、さらに意欲的に取り組ませる。

(2) 学校体育の充実と自分の健康を守る生徒の育成

重D⑰ 保健体育科 体づくり運動実施継続と「自分の健康は自分で守る」意識の高揚を図る。

6. P4:更なる組織力の向上(協働体制の確立により職場の活性化を図るとともに「滝中教員」としての誇りを醸成)

(1) 組織力の向上 ◆「真の気品」育成は、指導の統一性(トイレスリッパ・上履き・言葉づかい・離席・遅刻や早退指導等)が肝要。

- ① D① 指導の統一性・一貫性を保ち、同じベクトルで進む(学年通信・一事が万事・学びの喜び・久遠の理想 等)
- ② 重D⑲ 各学年の特色を生かした活動の推進(学年独自の取組を生かし、年度末の学年目標達成を目指す)
学年目標 1年「和」 2年「自律と自立」 3年「One for all, All for one」

(2) 多忙感・疲労感の払拭

- ① D② 会議の精選、回数を減らし、相談活動や教材研究等の時間を確保する。(管理職・教務主任・学年主任)
- ② D③ 19:00 施錠継続(業務があり残業が必要な場合は、教頭に連絡・相談する。だらだらと残るのは×)